

2022 年 2 月 22 日

**2021 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士論文**

慢性腎臓病患者と医師は腎代替療法選択に向けた話し合いで
何を大切にしているか

—患者と医師の価値観とその相違を探る—

**A Qualitative Study of What Chronic Kidney Disease Patients
and Physicians Value during Discussions of
Renal Replacement Therapy Options**

20MN006

宇野澤 千尋

【目的】慢性腎臓病患者と医師が、腎代替療法選択に向けた話し合いで何を大切にしているか、患者と医師の価値観とその相違に焦点をあて明らかにし、患者からみたよりよい話し合いについての示唆を得ることである。

【方法】腎代替療法選択に向けた話し合いをしている患者と医師に半構造化インタビューを行った質的記述的研究である。対象患者の条件は腎代替療法の選択が必要な病期で治療方針決定が近く、腎代替療法選択について話し合いがなされている患者、対象医師の条件は患者が通院する腎臓内科で勤務、腎代替療法選択に向けた話し合いの経験がある者とした。インタビューデータから逐語録を作成し、患者と医師が話し合いで大切にしていることや、価値をおいていることに着目し、クリッペンドルフの内容分析手法にてテーマ、カテゴリー、サブカテゴリーを抽出した。本研究は、聖路加国際大学倫理審査委員会の承認(承認番号:21-A011)を得て実施した。

【結果】研究対象者は患者と医師 10 名ずつであった。腎代替療法選択に向けた話し合いで大切にしていることとして、患者は『(患者の)自律性』『(患者の)個別性』『治療に関する情報と説明』『医師の応答性』『医師の人間性』『医師との関係性』『経験者や他医療者の話』『透析導入を遅らせること』、医師は『患者の自律性』『患者の個別性』『医学的判断に基づく説明と提案』『患者の治療への理解と受け入れ』『患者との関係性』『チームでの役割分担』『家族の参与』『話し合う環境』のそれぞれ 8 つのテーマを抽出した。『患者の自律性』『患者の個別性』『患者(医師)との関係性』が、患者と医師で共通していた。

患者に特徴的に示されたのは、医師の人として持つ人間性や患者の訴えに真摯に対応してくれる応答性に加え、透析は回避すべきという価値観であった。一方、医師に特徴的であったのは、患者の治療への受け入れや家族の参与、話し合う環境に価値をおいていることだった。他医療者との関わりにおいて、患者と医師双方が医師以外の職種が存在を大切にしていることに共通性が見られた。一方、治療の説明については患者と医師で異なる視点に価値をおいていた。患者は生活に即した情報や説明を大切にしていたが、医師は医学的な説明や提案に価値を見出していた。さらに、話し合いに対する認識や捉え方についても、患者と医師でそれぞれ特徴的な捉え方があることも示された。

【結論】患者と医師共に腎代替療法選択に向けた話し合いにおいて、自律性とくに個人の社会環境や関係性を考慮する関係的自律に価値をおいていた。特に患者は、医師の人間性や応答性にも価値をおいているため、医師は医療面に限らず自分自身に対して患者が何を求めているかに主眼をおき、患者との話し合いを共にどのように構築していくか考えていく必要があろう。さらに、患者と医師の話し合いに対するお互いの認識を確認していく必要性も示された。